

令和6年度 学校評価 自己評価書（一覧）							
評価基準		A—80%以上（良い） B—60～80%未満（まあまあ良い） C—40～60%未満（あまり良くない） D—40%未満（良くない）			園学校名 認定こども園安田さくら園		
項目	中長期経営目標	短期経営目標	短期経営目標の達成状況	自己評価	改善方策	関係者評価講評	関係者評価
知	子どもの興味関心を高め、自ら活動に取り組もうとする力の育成	○子どもの主体的な学びを保障するための環境構成 - 一人一人の子どもの発達に応じた環境構成の工夫や、保育を振り返り子どもの姿を基に見直しを行い、環境の再構成をする - 個々の興味関心に基づき、その時期にどのような育ちを期待したいのか、その為に必要な経験は何かを考え環境を構成する - 興味や関心のある活動にじっくりと取り組むことができる時間・空間・遊具などの確保 - 各年齢の指導計画等により見通しをもちながら育ちや季節に応じて必要な教材を準備する。又、遊具や用具・素材等について教材研究を深める	- 安心して保育者と関われるコーナーを設けることで情緒の安定につながった - 個々の興味関心、これまでの経験値に基づき必要な経験ができるよう見通し乳児に適した教材研究を行う。じっくりとしたいことに取り組める空間と時間を確保 - 環境を意識するようになり子ども達のやってみようという姿がみられるようになった。しかし、活動を通して子どもが経験していることや育ちの読み取りがまだ不十分。今、必要な経験や先を見通した保育には難しさがある	B	- 子どもを観察し、必要な援助や関わりを見極め発達に応じた保育を行う - 日々の振り返りを工夫し、その活動を通して保育者がねがうことやその先を見通した保育を行う - 個々の姿と今のクラスの育ちを把握し、クラスとして育ていきたい姿を明確にし、見通しをもち今必要な経験を取り入れる	- 先生方は子どもの個性に合わせた対応をしている。 - 目標を実現する時間確保（教材研究等）が困難なら、多忙や経験不足等を改善する手立て（専門家の派遣や人材確保）を考えてはどうか。 1年では小中のように結果が出るものではないが、長い目で一貫して取り組みを継続していつてもらいたい。	B
		○職員の資質、実践力の向上を目指す - 自己課題を明確にし、実践力の向上に努める - 主体的に学び、研修したことを伝え合う機会をもつ。様々な情報提供から視野を広げ保育に生かす - 必要に応じて日々の保育や子どもの様子について報告・連絡・相談に努め情報を共有する - 園内研修を行い、実際の子どもの姿を基に、保育参観、協議を行い子ども理解や発達に沿った保育の在り方を探る	- 日々の保育や子どもの様子について情報共有に努め、クラスの子どもの姿から必要な援助や環境を多面的な視点から考え保育に活かせるよう取り組んだ。 - 園内研を通して担任の良さや子どもの育ちが共有できた。又、子どもを多面的に見ることで、子ども理解を保育に繋げる重要性を学べた - 昨年度の反省から今年度の研修では改善を行い進めることが出来た。	B	- 視野を広げ、保育を見る目を高めていく - 研修等で情報を収集しながら学びを深める - 職員間の情報共有	- 職員会で評価シートの共有やフィードバックをしていることは評価できる。 - 日々の保育や子どもの様子についての情報共有や園内研修は大切。継続して欲しい。	B
	自分なりに表現しようとする力の育成	○遊びや生活の様々な場面で言葉にふれ、言葉の獲得につながる言語環境を整える - 一人一人の言葉の発達を捉え、年齢に応じた取組を行う。行動に言葉を添えたり、気持ちを言葉にするなど状況に応じた適切な言葉の表現 - 言葉で伝えたいような経験を重ねる中で、一人一人の発想や表現を共感し受けとめることで、安心して自分なりの言葉や動きでの表現を楽しめるよう関わる。 - 言葉遊びを楽しむことで色々な言葉に親しみ言葉を豊かにする	- 言葉を覚える時期には、保育者がモデルとなり沢山の言葉を意識して使ったり、先回りするのではなく、子どもの言葉を待つなどの援助を大切にした - 物の名前は沢山知っているが、感情を表す言葉の獲得が不十分 - 遊びや生活の中で、一人一人の言葉の表現を見ながらそれぞれに応じた援助を行い言葉が出るよう工夫	A	- 乳児は、日々の言葉がけを意識 - 具体的な場面を捉えて感情を表す言葉を繰り返し知らせ保育者がモデルとなり獲得できるようにする（その状況に応じた言葉や思いを代弁するなど伝え方の工夫）	- 色々と工夫しながら園児たちに寄り添っているのが分かり感心する。取り組みを継続して欲しい。 - 常に子ども達の様子に気を配り、適切なアプローチをする言語能力を身につけて欲しい。	A
徳	人と関わる力の育成	○絵本に親しみ、豊かな言葉や表現にふれる - 絵本の楽しさを十分味わうことができるよう題材や理解力などに配慮して選択し、多様な興味関心に応じる - 落ち着いた雰囲気を作り、一人一人が絵本の世界に浸り込めるようにする - 絵本コーナーを設け、年齢、季節に合った絵本を置き、落ち着いてじっくりと見ることができるよう工夫する - 絵本の貸し出しやお便り等を通して絵本のおもしろさ、大切さなどを保護者に発信する	- 絵本の読み聞かせの大切さを発信すると、分かっているが時間を設けることに難しさを感じている。参観日に親子で絵本に触れる時間を設けたのでよかった - 年齢、行事、興味関心に合わせた絵本を用意することで、興味をもち自分から手に取る姿が見られている	B	- お便りに絵本のコーナーを設けその時期に子どもが興味のある絵本の紹介や、読み聞かせのコツなどを発信（絵本の大切さを具体的に知らせる） - 貸出し絵本の参考となるよう、連絡帳で好きな絵本について知らせる	- 参観日に親子で絵本の読み聞かせなど良い取り組みをしている。 - 保育士として、絵本に関する専門知識や技能を高め、さらに子どもの感性を育てて欲しい。 - 読書週間の例えばアンケートで保護者のお勧めの絵本を紹介する回答を集め、お便りに載せたら目を引くのではないかな。	B
		○自分なりに考えて自分の力でしてみようとする態度を育てる - 自分でしようとする意欲や諦めずにやり遂げようとする気持ちを大事にしながら自分の力で実現できる環境や援助の工夫 - 自然や物・人に関わり、考えたり、試したりできる環境の充実 - 身近な事象に関わる中で、気付きや新しい考えをうみ出す喜びや楽しさが味わえる工夫 ○保育者や友達に認められる体験をし、自分の良さに気付き、自信をもって行動できる - 遊びや生活の中での気付きや成功体験を通して意欲的に取り組む - 保育者や友達に認められる体験を通して、自分の良さに気付き自己肯定感を育む ○道徳性・規範意識の育成 - 友達と様々な体験を重ねる中で、おもしろいや自分の気持ちを調整し友達と折り合いをつけるなど自己抑制力を育む - 生活の中でしてよいことや悪いこと、決まりの大切さに気付き守ろうとするなど、生活のために必要な態度が身に付くよう援助する	- 生活面においては、家庭との連携を大事にしながら、個々のできることを見極め必要な援助を行う。見守る、十分な時間の確保、環境の工夫に努める - やってみようことには挑戦できるようし、意欲や自信に繋がるよう関わった 「やってみたらできた」を積み重ね日々の活動の中で自信をもって色々なことに挑戦できるよう関わった - 頼りにされる経験や役に立つ喜びを感じる中で周りの人への思いやりが育ってきている（年長児） - してよい事悪いことは、個々に応じて知らせて来たが家庭と共通理解が難しい	B	- 自分の気持ちを調整したり、折り合いをつけたりすることに時間が必要な子どもがいるので、友達と様々な体験・活動を経験できるようにする 「できた」「できない」の結果ではなくやってみようとする気持ちを育てていく。 - 保護者とも子どもの内面の成長を共有	1歳児から5歳児までの発達段階の違いを理解するには、個々の活動内容（遊びごっこ・園内外体験等）及び実践事例の記録・紹介があれば園の活動を理解しやすい。 「道徳性・規範意識の芽生え」には、子ども同士の関わりと保育士との信頼関係が大切で、少しずつ身につけていくと考えている。 - 適切な注意と誉め言葉の使い分けで、子どもたちが安心して過ごせることが大切。 - 誉め言葉は子どもたちの自信と気持ちを高める効果がある。子どもたちの行動や努力を誉めるような具体的な実践事例の紹介をしてほしい。 - 注意をする場合には、原因を聞いたり相手の立場に立って話をするなど、子どもたちに理解を促すよう心掛けてほしい。	B

体	健康な心と体の育成	○基本的な生活習慣の定着に向けた取組 ・生活アンケートを計画的に行う。生活習慣に関することをききとりながら生活状況を把握し家庭と連携した取組を実施 ・家庭での生活経験に配慮し、必要な体験や適切な援助などについて共通理解を図り、自分でやり遂げた満足感を味わいながら自立心を育てる	・身の回りのことをしようとする意欲を育むよう関わってきた ・家庭との連携や共通理解には難しさがあるが、背景を考慮しながら働きかけていく。 ・子ども自身も意識することが出来るようにクラスで話をしたり気をつけていることを認めたりした	B	・基本的な生活習慣が身につくように継続的に保護者と連携を図る。すぐには改善できない事をふまえ、今できることを保護者と共に考えながらしていく。 ・幼児クラスは、子どもに分かりやすく生活リズムの話をしていく	・保育者と保護者の間に「不満」や「不信感」が生じるのはつらいこと。お互いに「子どものために」と感情を抑えて、「思いやる」ことが大切。根気よく信頼関係を築いて欲しい。 ・アンケートの取り方を工夫したことは評価できるが、毎回同じようなアンケートで趣旨が曖昧になり、おざなりな回答が多いのではないか。家庭の共通理解を促すならもう少し工夫を。	B
		○体力向上と運動習慣の定着に向けた取組 ・発達や興味などに応じた遊びの中で自から体を動かす心地よさを感じ、体を動かす意欲を育てる ・子どもが自ら体を動かしたくなるような遊びや体験活動の工夫	・年齢に応じて様々な体を動かす遊びを取り入れている。友達と一緒に活動する楽しさ、やったらできた経験ややってみようと思うような活動を取り入れる事で定着している	A	・興味や発達に応じて体を動かす時間を作ったり、自分から動かしたくなるような場を作る ・乳児クラスも曜日を決め継続して取り入れる ・参加したがない子どもには意図的に、全体での活動として取り入れていく	・園児のやる気スイッチを押しているようで素晴らしい。 ・運動教室など、外部講師を招いたり、定着のために力を入れている。 ・楽しみながら体を動かす遊びや運動を多く取り入れたりして、子どもが自ら運動を楽しめる取り組みを継続して欲しい。	A
		○食育活動 ・野菜の栽培を通して、生長を観察し収穫の喜びを味わう ・食べる楽しさや喜びを味わい様々な食べ物に興味関心をもち、食事を大切にする態度を育てる	・野菜の栽培をすることで、世話をしたり生長の過程を見たり収穫した野菜を調べたりすることで食べ物への関心を高めることが出来た ・食事の姿勢の悪さが課題となっている	B	・食事のマナーについても乳児期から大切にしてい（家庭でも食事を大切に出来るように年齢に応じて発信する）	・野菜の栽培体験をしながらの食育教育は効果的だと思うので継続して欲しい。 ・苦手な野菜を育てることで食べられるようになったり、植物の仕組みや育てることの難しさを学べた。 ・食事の姿勢の悪さは、食事以外でも姿勢が悪いと思う。その原因を考え、姿勢が正しくなる方法を探り、褒めながら改善して欲しい。	B
連携・協働	学校・家庭・地域との連携	○学校、家庭、地域との連携した活動の充実 ・おたよりやドキュメンテーションなどで保護者が興味をもてる情報の発信や経験の中で学んでいることを可視化し伝え方を工夫する ・その日の子どもの様子を細かく伝え、子どもの成長を喜ぶ気持ちを保護者と共有する	・保護者が読んでみたくなるようなお便りをめざし生活や遊びの様子を伝えて来たが目の見えない内面の発達や成長についてはわかってもらいづらい ・保護者との情報共有に努めているが、子どもの成長を共に喜ぶために、伝え方を更に工夫する必要がある	B	・保育者が大切に感じている成長と保護者との思いにずれがある。内面の成長も共に喜び合えるよう発信の工夫が必要 ・地域への発信の工夫	・お便りに写真を多く使う、カラーにするなど工夫することで前より見やすくなった。 ・園での子どもの様子がわかる「お便り」は保護者にとって有り難いものと思う。保育のねらいやそのねらいにどのような取り組みをしているかも含め、読まれやすい内容の工夫もしながら継続して欲しい。 ・保護者と保育園の協力は、子どもの全面的な発達と幸福につながる。情報の共有や事実の正しい理解のためには報連相が重要。一緒に安心して子どもたちを育てる「仲間」として頑張ろう。 ・参観日の機会を利用して進めている園の取り組みを見せるのは良いと思う。保護者理解を深めるためにも紹介する活動を広げてはどうか。	B
	就学前教育の充実	○特別支援教育の充実 ・個別の支援計画を作成し、支援の充実を図る。 ・職員間で連携を図り、子どもの育ちの共通理解につとめる ・小学校との交流や職員間の連携を深め円滑な接続を図る。 子どもの良さや経験を小学校につないでいく ○親育ち支援の充実 ・気になる子どもや保護者については家庭との連携を図りながら、園内で情報共有を行う。具体的な対応については複数の視点で検討する	・子どもの育ちや経験していることを共通理解することには課題が残る。 ・気になる園児やその保護者などの情報を園内で共有し、必要な支援を複数の視点で探り、長い目で見守りながら今できる支援を行い引き継げるように取り組んでいる	B	・特別支援の共通理解には不十分な所がある。クラスだけで考えるのではなく園全体で取り組んでいけるよう困り感を発信し共に考える集団作り ・就学後、充実した生活を送れるように子どもの育ちやよさを小学校に繋げる(伝え方の工夫) ・交流事業や研修のねらいを職員全体で共通理解し、実施の仕方を工夫しながら連携を深める	・色々な保護者がいるので対応が大変であるが頑張っている。 ・どの子どもに対しても一人ひとりの特性に合わせて必要な支援ができるスキルを身につけて子供も保護者も笑顔にして欲しい。 ・家庭教育の重要性について保護者が理解を深め、自信と喜びを感じながら子育てができるよう、保護者の学習機会を設けてはどうか。	B
	安全教育・安全管理の充実	○危機管理マニュアルに基づきながら安全な対応に努める ・園内外の安全点検を定期的に実施する ・計画的に地震や火災を想定した避難訓練を行い、環境の見直しへ繋げる ・園全体の危機管理を理解し、安全に生活できる環境を工夫し改善に努める	・予告なしの訓練を行う事で、毎回反省点が出る。その気づきを全体に共有することで改善点について次につなげるように取り組んだ ・全職員が自分事として捉え動けるようにしておく必要がある	B	・全職員が情報共有できる機会を設ける ・様々な状況を想定し、少しでも早く避難できるように避難道で実際に訓練し反省点を共有しながら次につなげる	・保育士は、子どもたちの安全を第一に考え、事故やケガから子どもたちを守る必要がある。そのためには子どもたちの安全に関する知識やスキルが必要。 ・子どもたちの行動を常に観察し、危険を察知する能力を身につけて欲しい。	B